日常点検はクルマのトラ ブルを早期発見し事故防止につながります

法定点検と日常点検は、必ず行いましょう。正しい点検整備で、クルマを安全・快適にお使いください。
普段と違う点に気づいたら、Honda四輪販売会社で点検を受けましょう。

ぶ た とう ねんりょう
ブ タ 灯 燃料

日常点検の中でも特に重要な項目は、「ブ・タ・灯・燃料」とおぼえましょう。

ブ ブレーキ

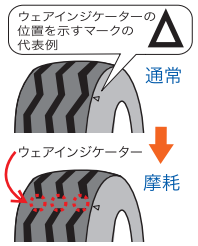
走り出す前に必ず運転席に座って、ブレーキを踏んだときの踏みしろは確保されているか、床とのすき間が確保されているかを確認しましょう。また、走り出しの低速の状態で一度ブレーキを踏んで、効き具合を確認しましょう。

タ タイヤ

ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

＊詳細については、装着したタイヤのカタログまたは、タイヤメーカーのHPでご確認ください。

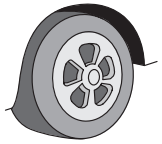


極端な摩耗やキズ

タイヤの一部だけが摩耗していないか、亀裂や損傷がないか、異物が刺さっていないかを目で確認しましょう。

空気圧

空気圧は、外から見ただけではわかりません。ガソリンスタンドや、Honda四輪販売会社でこまめに空気圧のチェックをしましょう。空気圧が低いと燃費が悪くなるだけではなく、走行にも支障が出てきます。



灯 灯火類

エンジンスイッチをONの状態にして、ヘッドライトやストップランプ・ウィンカーランプなどが確実に点灯しているか、汚れや破損がないかを確認しましょう。ストップランプは、壁などにランプの光を当てて確認するようにしましょう。

燃料 ガソリンなどの燃料

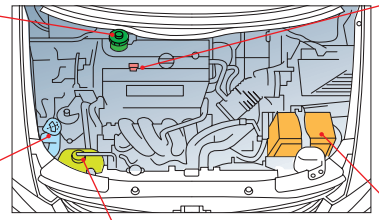
エンジンを始動させ、目的地に到着できるだけの燃料が十分にあるかを、燃料計で確認しましょう。

日常点検の手順

日常点検を行うときは、取扱説明書とメンテナンスノートをよくお読みのうえ、安全な場所で行ってください。

点検の手順 1

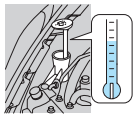
■エンジンルーム



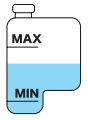
ブレーキ液の量
MIN～MAX の間にあるかを確認しましょう。

エンジンオイルの液の量
下限（L）と上限（H）の間にあるかを確認しましょう。

ウィンドウォッシャー液の量
キャップに付いているレベルゲージで確認しましょう。



冷却水の量
MIN～MAX の間にあるかを確認しましょう。



バッテリー液の量
LOWER と UPPER の間にあるかを確認します。密封式では点検窓で確認しましょう。

点検の手順 2

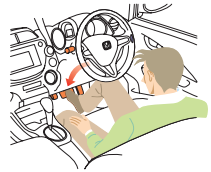
■クルマの外まわり

- ヘッドライト、ストップランプなどの点灯、汚れ、破損
- タイヤの偏摩耗、亀裂や損傷、空気圧の確認

点検の手順 3

■運転席

- パーキングブレーキのレバー（ペダル）の引きしろ（踏みしろ）
- エンジンのかかり具合、異音
- ブレーキペダルの踏みしろ
- ウィンドウォッシャー液の噴射具合
- ワイパーの拭き取り具合



点検の手順 4

■走り出してから

- ブレーキの効き具合
- 低速、加速時の状態

お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

スムーズな運転操作は正しい姿勢から

運転に必要な操作を無理なく確実にできる姿勢、それが正しい運転姿勢です。
疲れにくく、いつでも的確なハンドル操作やブレーキ操作ができ、安全運転につながります。

正しい運転姿勢のポイント

シートと腰、足、背中をうまく調和させるのが正しい運転姿勢のポイントです。
腰、足、背中の順にポジションを決めていきます。

＊シート調節の詳細については、
取扱説明書をご確認ください。

1 腰

シートに深く腰かけた状態で、腰と背中をシートに密着させて隙間をあけないようにしましょう。

2 足

ブレーキペダルを右足で（マニュアル車はクラッチペダルを左足で）いっぱいに踏み込んだとき、ひざが伸びきらず、少し余裕がある位置にシートを合わせましょう。フットレストがある場合は、左足をフットレストに置き体を安定させましょう。

3 背中

背中をシートに密着させ両手でハンドル上部を握り、ひじに少し余裕ができる角度にシートバック（背もたれ）を調節します。
ハンドルの位置調節やシートの高さ調節ができる車種は、高低も調節しましょう。

4 頭

調節機構つきの場合は、耳の中心とヘッドレストの中心の高さが合うように調節しましょう。

5 シートベルト

シートベルトを正しく着用しましょう。
（9ページをご参照ください。）

■ その他の注意事項

- シートバック（背もたれ）は必要以上に倒さないでください。
- 運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲でシートを後ろに下げてください。
- 助手席の方は、インストルメントパネルに近づきすぎないよう、シートを後ろに下げてください。

このような姿勢で運転していませんか？

ハンドルにしがみつくような姿勢

このような運転姿勢は、背中とシートの間に隙間ができます。体が固定されず不安定になり、疲れやすく、ハンドル操作がスムーズにできなくなります。またSRSエアバッグに近づきすぎるため、作動時に強い衝撃を受けるおそれがあります。

寝そべり姿勢

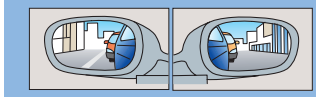
このような運転姿勢は、腕が伸びきった状態で的確なハンドル操作がしにくくなり、ブレーキをしっかり踏みにくくなります。万一の事故のとき、シートベルトの下に身体が滑り込んでしまい、重大な傷害を受けるおそれがあります。

Safety one point

ミラーの調節も忘れずに

正しい運転姿勢でシートに座り、シートベルトを着用してからミラーの調節を行いましょう。ルームミラーは、後方視界がミラーの中央にくるように調節すると、後続車の位置が確認しやすくなります。

ドアミラーは、左右後方の道路が映り、そこに自分のクルマの一部が映り込むように調節すると、後続車との距離感がつかみやすくなります。



お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

乗車中は、必ずシートベ ルトを全員正しく着用しましょう

シートベルトの着用は安全運転の基本です。
シートベルトを正しく着用することで、SRSエアバッグも十分に効果を発揮します。

シートベルトの正しい着用方法

シートベルト着用の詳細については、取扱説明書をご確認ください。

- 正しい運転姿勢でシートに座ります。
- 腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩のベルトの高さは首、あご、顔に当たらないように調節します。
- シートベルトにねじれ、たるみがないかを確認します。

近くに出かけるときでも全員がシートベルトを

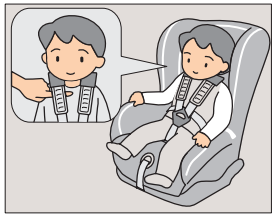
「面倒だから」、「短い距離だから」と油断は禁物です。運転者はもちろん、同乗者全員がシートベルトを正しく着用するようにしましょう。

チャイルドシートは後席に正しく取り付けましょう

お子さまの体格にあったチャイルドシートを使用し、シートベルト固定タイプはシートベルトで後席に確実に固定しましょう。また、ISOFIX 対応車種には、車種限定型 ISOFIX チャイルドシートをおすすめします。取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認ください。

後席は必ず元の状態に戻して走行を

後席をフルフラットの状態のままで人を乗せて走るとシートベルトを正しく着用できず、ブレーキをかけたときなどに思わぬケガにつながるおそれがあります。



＊乳児用シート、幼児用シート、学童用シートを総称して「チャイルドシート」と呼んでいます。

＊Honda 車には Honda 純正のチャイルドシートがおすすめです。大切なお子さまを守るために、あらゆる角度から安全性を検証しています。詳しくは Honda 四輪販売会社へお問い合わせください。

Safety one point

助手席にチャイルドシートを後ろ向きに取り付けるのはやめましょう。

乳幼児（6歳未満のお子さま）を同乗させるときは、発育の程度に応じた形状のチャイルドシートを使うことが道路交通法で定められています。助手席エアバッグ付きのクルマでは、なるべく後席にチャイルドシートを取り付けましょう。やむを得ず助手席に取り付けるときは、座席をできるだけ後ろまで下げ、必ず前向きに固定しましょう。

後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付け、SRS エアバッグが作動すると、強い衝撃を受け、乳幼児に重大な傷害を与えるおそれがあります。

お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010